

## コロナ禍におけるFSCの対応

持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学

国内外における新型コロナウイルスの感染拡大により、岩手大学でも授業開始日の延期、学年暦の変更が何度かあり、先を見通せず不安が大きい中で新年度がスタートしました。このような状況において、FSCでは対面実施が不可避である実習の対応に苦慮しました。また、生産現場の維持管理も計画通り遂行できるように対策を施しました。各フィールドでの状況を以下に紹介します。

### ● 滝沢農場

例年、滝沢農場で実施している農場実習Ⅰは、バスでの移動を止め、場所を学内西下台圃場に変え実施しました。学生が密集しないよう圃場の区画配置を工夫し、また使用後の農具を消毒しました。宿泊を伴う実習は、日帰り実習に変更し、昨年からは開始した高校生対象の公開講座は中止しました。例年、滝沢農場で3日間実施しているブルーベリー摘み取り販売は、連日少人数の予約制に変更し、販売額を例年並みに維持することができました。もし、農場内で感染者が発生した場合でも日常の業務を継続できるように、半数の職員と学生は学生宿舎に居室を移し日常の業務、研究に取り組みました。

(持続型農業生産技術分野 助教 渡邊 学)

### ● 御明神牧場

御明神牧場においても、コロナ禍の中、前期実習の実施には大きな影響を受けました。例えば、動物科学科の動物科学実験Ⅱや共同獣医学科の総合参加型臨床実習は中止になりました。逆に、産業動物臨床実習は家畜改良センター岩手牧場での実習に利用者の上限が設けられたことから、御明神牧場での実習回数が増えました。FSC全体として原則宿泊実習は受け入れないとしたことから、例年泊ま

り込みで実施されていた「牧場実習」は、日帰りでの実施になりました。販売活動において、コロナ禍によるインバウンド消費の消滅により、牛肉の消費が落ち込み、これにより牛価格も当初収入予測よりも3割程度、600万円ほど減収になる見込みとなりました。

(持続型農業生産技術分野 准教授 平田統一)

### ● 御明神演習林・滝沢演習林

コロナ禍における演習林での実習実施に関しては、岩手県における感染状況が比較的軽微であったことから①ソーシャルディスタンス確保のため移動時のバスの大型化、②実習時の技術職員との距離の確保、③用具等の随時消毒などにより対応しました。ただし宿泊を伴うものについては日帰りの連続とし、教育関係共同利用拠点としての他大学生宿泊利用に関しては中止としました。技術職員による森林管理業務に関してもソーシャルディスタンスの確保と手指消毒の徹底を基本に、通常に準ずる形で実施しました。コロナ禍を原因とする木材市況の低迷により材価は低下傾向ですが、森林管理作業の順調な進行により、木材生産量と収入は増加傾向にあります。

(循環型森林管理技術分野 教授 山本信次)



滝沢演習林でのガイドウォーク



マスク着用での農場実習

## 南部甘藍 里帰り菜の花計画

持続型農業生産技術分野 教授 由比 進

南部甘藍(なんぶかんらん)は、岩手が誇るキャベツ品種でした。20世紀初頭、北海道などから岩手に導入したキャベツのタネ取り栽培中に自然交雑が起こり、その雑種後代から選抜固定された在来品種です。硬いこと、大きいこと、貯蔵性が高いことが特徴で、20世紀前半に岩手町を中心に栽培され広く全国に流通した大品種でした。しかし、ゴマ症と呼ばれるアザミウマの食害が発生して1960年頃には栽培がなくなってしまいました。

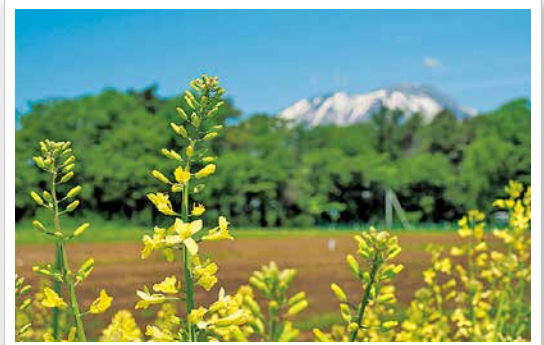
そんな岩手ゆかりの南部甘藍は、淡黄色の上品な菜の花を咲かせます。この菜の花で南部甘藍を復活させようと、岩手町の石神の丘美術館と協力して取り組みを始めました。古い品種なのでまずタネを入手するまでが大変でした。方々手を尽くした結果、佐藤政行種苗(矢巾町)が大切に維持しておられることがわかり、それを譲り受けることができました。昨年の夏にタネ播きをして、本年春には滝沢

農場の畑と石神の丘美術館のプランターで菜の花を咲かせることができました。今後、菜の花を咲かせるためのタネ播き時期や栽培方法を検討して、里帰りをはたした南部甘藍の菜の花で岩手町をいっぱいになりたいと考えています。

実は、里帰り計画には続編があります。明治期にフランスから導入されて飼料用に栽培されていた小岩井蕪を、小岩井農場に里帰りさせようともくろんでいます。そちらも、話が進んだらご報告することにしてしましよう。



(撮影:亀甲由香里)



## 新任教職員の紹介



循環型森林管理技術分野 助教  
白旗 学

本年4月に農学部森林科学科から配置換えにより寒冷FSC演習林助教を拝命いたしました。岩手大学に赴任当時、数年ほど演習林教育研究部(当時)の兼任教員として管理運営のお手伝いをさせていただきました。その後も教育研究フィールドとして数多く演習林を利用させていただき、寒冷FSCの皆様にはたいへんお世話になっておりました。本学演習林は、全国の演習林の中で規模・立地ともにたいへん恵まれた環境にあり、研究フィールドとしてはもちろん、教育関係共同利用拠点として他大学を含めた学生教育や社会人教育、地域社会への貢献等、森林科学教育研究において重要な役割を果たしておりますが、それらの機能も、森林の状態が健全に保たれていてこそそのものです。寒冷FSC教職員の皆様に助けていただきながら、専門である造林学の知識を生かし、演習林管理運営に少しでもお役に立てるよう励んでまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願いいたします。



持続型農業生産技術分野 技術職員  
高橋雅人

この度、御明神牧場で飼料作物と農業機械を担当いたします高橋雅人です。学生が動物に親しむ機会や、動物にかかわる様々な研究に関りを持つことができうれしく思っております。私自身、大学では経済学を学んでおり、全く別の分野から動物にかかわる分野へと飛び込んでまいりました。元々、農業に興味があり関りを持ちたいと考えておりましたが、知識はほとんどない状態で、日々新たなことを吸収し勉強しております。まだまだ分からないことがたくさんあり不安も多くあります。しかし、その中でも学生の実習や研究、学内外問わず多くの実験・研究がスムーズに進むよう牛の状態をよく観察し、良い牧草を作れるように勉強を重ね、日々チャレンジしていきたいと思っております。また、牧場ではトラクターをはじめ多くの機械を使用しております。丁寧な点検整備、修理を行い、誰もが安全にトラブルなく使用できるように努めてまいります。何卒よろしくお願ひ申し上げます。